

いた。岩手県の祝い歌「気仙坂」の変化した歌が、南下して原釜に流布したものである。

力強いなかにも新鮮な魅力を秘めたすぐれた民謡である。

ウ 音楽的特徴

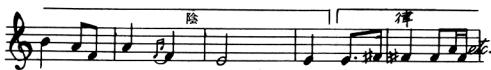
⑦ 拍節的なリズムによる民謡である。

① 基本のリズムは♪ ノ ノ で、変化して♪ ノ ノ , ♪ ノ ノ , ♪ ノ ノ からできている。

⑦ この歌は、陰音階（都節音階）と律音階からできている。



⑤ 転調 陰→律→陰



④ 曲の構成 A (a, b) —B (c, d)

エ 目標

⑦ 日本の音階を理解させるとともに、曲趣を生かして力強く勇壮に、大漁の喜びを表現させる。

① 郷土の民謡のよさを認識させ、郷土の音楽に興味や関心をもたせる。

オ 指導計画

⑦ 陰音階の理解と曲趣を生かした歌唱表現 第1時

① 郷土の民謡を調べ、その特徴の理解と表現 第2時

カ 本時のねらい

陰音階でできている曲になれさせ、その音組織を理解するとともに、大漁の喜びを生かした力強く勇壮な歌唱表現をさせる。

キ 具体目標

⑦ 聽唱・視唱活動を通して、全曲を歌うことができる。

① 陰音階の音組織の特徴がわかる。

⑦ 大漁の喜びを生かして、力強く勇壮に表現できる。

7 指導場面

指導内容	指導上の留意点
○全曲鑑賞	○地元の人の歌ったものを使用する。 ○曲全体の感じをつかませる。 ○どんな感じの曲か話し合わせる。
[聴唱による指導] ○フレーズ(A-a, b, B-c, a')ごとの聴唱練習	○聴唱用録音テープは、フレーズごとに編集録音し、反復聴唱し、曲をおぼえさせる。 ○楽譜と対比しながら聴唱させる。
○陰音階の上行・下行の視唱練習 	○民謡の旋律進行は、順次進行が多く、音階唱を徹底することによって効果的に旋律唱へ発展できる。 ○陰音階の特徴を感覚的にとらえさせる。 ○律音階や陽音階と比較させる。 ○まず、曲の骨格をしっかりと歌えるようにする。 ○密接関係の調への転調（陰音階→律音階）
○題材の階名唱練習 	○転調に注意し、音程が正確にとれるようにする。 ○民謡の特徴を知り表現に生かすようとする。 ○民謡独特的の節回しや小節をつけて歌えるようにする。 ○録音テープを聴き表現の参考にする。 ○この曲の生成の背景と歌詞・内容から、漁夫の生活、大漁の喜びを理解させ表現に生かす。 ○スライド（大漁船帰港風景など）
○表現の工夫 (節回しや小節) (リズムの取り方)	
○曲趣を生かした力強く勇壮な表現	

おわりに

これまでの日本の音楽教育が西洋音楽中心であっただけに、日本の音楽そのものについての教育的研究は浅く、指導の体系や方法が確立していない。それだけに、郷土の音楽の教材化も、種々の問題点がある。本研究もその解決の一策になるかどうか疑問であるが、参考にしていただければ幸いである。

参考文献

- 「日本伝統音楽の研究Ⅰ」 小泉文夫著 音楽の友社
- 「福島県の民謡とわらべ歌」 懸田訓弘編著 岩瀬書店
- 「日本の音」 小泉文夫著 青土社
- 「日本の民謡」 浅野建二著 岩波書店
- 「中学校指導書音楽編」 文部省 教育芸術社